

(2) 市長の財政方針

流山市後期基本計画の中期実施計画最終年度となる平成27年度は、本市の都市イメージ「都心から一番近い森のまち」を具現化するための事業を積極的に展開するものである。

つくばエクスプレス沿線を中心とした都市基盤整備を進める中、本市の人口は、子育て世代を中心に増加しており、平成26年度決算における市税収入は、前年度比で約7億4,700万円の増額となった。

一方、社会保障や子育て関連費用は増加しており、また、防災面を含む都市機能の維持、向上のための都市インフラの整備及び更新に関わる経費も増大している。

こうした中で必要な事業を実施するため、平成27年度予算については、国の補助金をはじめ、地方債等の財源確保に最大限努めながら、財政調整積立基金残高を最大限確保することとした。

その結果、一般会計の歳出歳入予算を前年度と比較すると、前年度比47億5,200万円、9.45パーセント増の550億4,100万円と過去最大となった。

また、特別会計、水道事業会計及び下水道事業会計を合わせた予算総額は、対前年度比91億7,700万円、10.1パーセント増の997億8,800万円となった。

今後も、費用対効果を念頭に置き、より少ない費用でより市民満足度が高い行政サービスを提供することができるよう各種事業の見直しを行い、一層の効率化を図るとともに、後年度の財政負担に十分配慮しながら、安定的かつ継続的な市民サービスを提供できるよう持続可能な財政構造を構築していく。